

## 大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値 ～WMO 温室効果ガス年報第4号の発行～

世界気象機関(WMO)による温室効果ガス年報(Greenhouse Gas Bulletin)第4号(11月25日発表)によると、大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の2007年の世界平均濃度は過去最高であり、なかでもメタンは1998年以来の高い増加量を示したことが分かりました。

世界気象機関(WMO)は、世界中で観測される温室効果ガスの濃度を毎年とりまとめて、温室効果ガス年報として発表しています。気象庁は、WMOの温室効果ガス世界資料センター(World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG)を運営して世界中の観測データを収集・解析しています。この結果に基づいて本年報が作成されています。

本年報の第4号(11月25日発表)によると、大気中の代表的な温室効果ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、メタン(CH<sub>4</sub>)及び一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)の世界平均濃度は、これまでの最高となったことが分かりました。なかでもメタンは、近年増加傾向が頭打ちになっていましたが、2007年には1998年以来の高い増加量が見られ、2003年に記録した最高濃度を上回りました。また、二酸化炭素も引き続き高い増加傾向を維持しています。

本年報は、気候変動枠組み条約第14回締約国会議(COP14)及び京都議定書第4回締約国会合(MOP4)(12月1日～12日、ポーランド・ポズナン)で配布される予定です。

今回発表された年報に掲載された解析結果の概要は別紙のとおりです。

本件に関する問い合わせ先：地球環境・海洋部 環境気象管理官付  
全球大気監視調整官  
電話 03-3212-8341(内線 4112)

## WMO 温室効果ガス年報に掲載された解析結果の概要

表1 世界の温室効果ガスの状況

	二酸化炭素 CO <sub>2</sub> (ppm)	メタン CH <sub>4</sub> (ppb)	一酸化二窒素 N <sub>2</sub> O (ppb)
2007年平均濃度	383.1	1789	320.9
前年との差	1.9	6	0.8
これまでの年平均濃度最高値 (最高値を観測した年)	381.2 (2006年)	1785 (2003年)	320.1 (2006年)
最近10年間の平均年増加量	2.00	2.7	0.77
工業化以前の濃度との比 (工業化以前の濃度)	137% (約280)	256% (約700)	119% (約270)

注: ppm: 体積比で百万分の一、ppb: 体積比で十億分の一

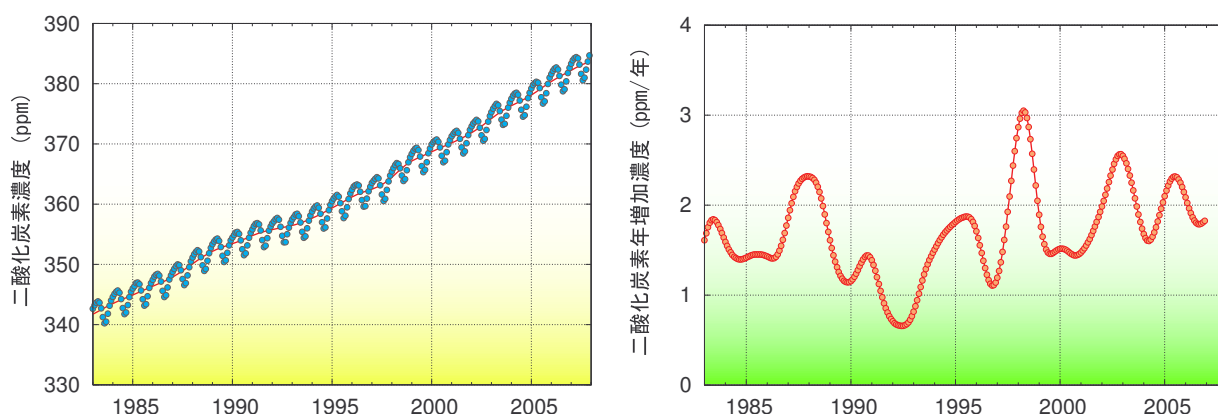


図1 二酸化炭素の世界平均濃度(左)と濃度増加の割合の経年変化(右)

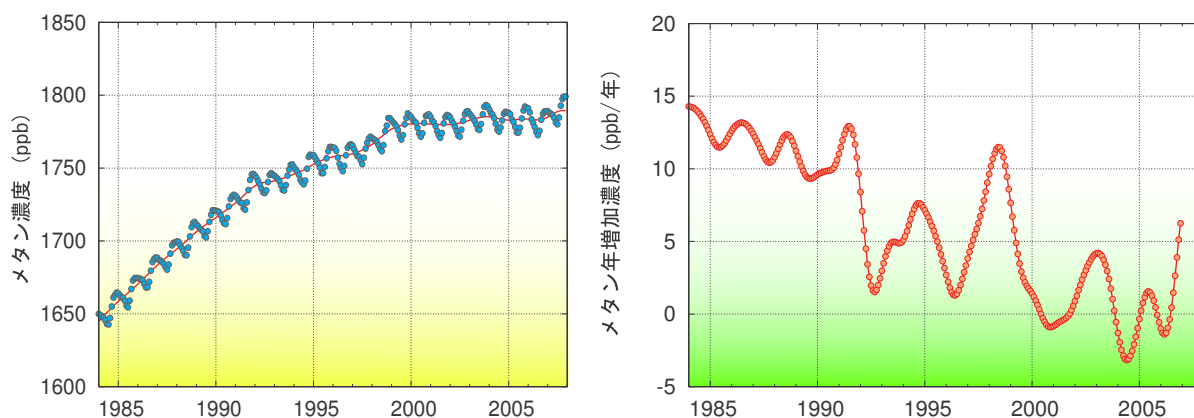


図2 メタンの世界平均濃度(左)と濃度増加の割合の経年変化(右)